令和８年度 港区立高輪幼稚園経営方針

園長　佐々木　勝世

1　教育目標

人権尊重の精神に基づき、主体的に遊びや活動に取り組み、豊かに感じ、自ら学び考え、行動する幼児を育成するため、次の目標を設定する。

「やさしく、かしこく、たくましく、伸びる高輪の子」

〇やさしく　…生命を大切にする心、他者への思いやり、互いのよさを認め合い生かし合う協同性、社会生活における望ましい習慣や態度などを育む。
〇かしこく　…試行錯誤を楽しむ心もちや考える力、考えたことを表現する力、自分で判断し行動しようとする態度などを育む。
〇たくましく…健康・体力につながる生活習慣の確立と進んで運動しようとする態度、物事に粘り強く取り組みやり遂げようとする意欲や意志の力を育む。
〇伸びる　…身の回りの様々なことに興味・関心をもち、自らやってみようとする主体性を育む。

幼児一人ひとりに、自分のよさや可能性を信じ、多様な人々と協働しながら豊かな未来社会を切り拓くことができる力の基礎を培うことを本園のミッションとする。

2　目指す幼稚園

わくわく　ぽかぽか　みんな笑顔の高輪幼稚園

上記の教育目標を達成することは、国の掲げる「こどもまんなか社会」の実現につながるものである。そして、こどもまんなか社会は、子どもだけではなく、子どもを取り巻く人々、社会全体の幸福によって成り立つものである。

そこで本園は、幼稚園に関わる全ての人々（幼児、教職員、保護者、地域の方、外部講師、行政関係者等）が「わくわく、ぽかぽかし、笑顔になれる園」（＝ウェルビーイング*の実現）を目指す。

＊身体的・精神的・社会的に幸せな状態。短期的で個人的な幸せではなく、より包括的で個人を取り巻く「場」が持続的によい状態であること。

わくわくする幼稚園

〇幼児の「これをしたい！」を引き出す
幼児の好奇心を刺激し、主体的な関わりを引き出す園庭環境、室内環境を工夫し、探究心に応える活動を幼児と共につくり出す。

〇幼児の声を聞き、大切にする

教師が願いをもって環境を構成し、活動を計画するように、幼児にも空間的・時間的環境への願いや実現したいことがある。遊びに限らず、園生活の全ての場面で、幼児が主体的に考え、提案し、教師や友達と共に実現する保育を実践する。

〇理想を追求する

教師自らが学びたいことを学ぶことができる環境を整え、一人ひとりの自己課題の解決を促進する。教師が自己の課題を自覚するとともに、教師間で悩みを共有し、解決策を共に考え、日々の教育実践を通して、一人ひとりが「自分の理想の教師像」に近付くことができるようにする。

〇保護者、地域の方等の自己発揮を促す

幼児や教職員はもちろん、保護者、地域等にも様々な個性や能力、価値観をもった方たちがいる。保護者や地域の方等がそれぞれの持ち味を発揮できる機会を日々の教育活動やＰＴＡ活動、行事等でつくり出し、園の教育に携わることの喜びを感じられるようにする。

ぽかぽかする幼稚園

〇誰一人取り残さず、その子らしさが輝く園生活を保障する

幼児一人ひとりのその子らしさや持ち味が、友達、教職員、保護者等、幼稚園に関わる様々な人々に理解され、大切にされ、生かされる保育をデザインし、実現する。（＝いじめ防止の徹底）

〇心理的安定性とチーム意識を確立する

職場の心理的安全性を確保し、全ての教職員が各々の持ち味、経験等を生かしながらそれぞれの役割を果たし、協働し、生き生きと仕事に取り組めるようにする。

〇人とつながる安心や喜びを感じられるようにする

保護者（未就園児保護者含む）への助言・相談やサポート保育の実施等をとおして、保護者の安心や自己実現の支援につなげる。また、地域コーディネーターの協力を得て、保護者や地域の方等が幼児、教職員、保護者同士とつながり、「関わってよかった」「楽しかった」「役に立ててうれしい」などと思えるようにする。

みんな笑顔の幼稚園

〇ウェルビーイングの深化を促す

「今が楽しい」という個人の短期的な幸せから、「友達や身近な人の幸せを願う」「自分たちの幼稚園や地域、世界をよりよいものにしていきたい」という共に生きる人々の持続的な幸せを願い、追求しようとする意識へと幼児の思いが深化していくようにする。具体的には、幼稚園修了前の幼児が以下のことを実感し、実践できるようになることを目指す。

- ❤みんなが笑顔になれることを考え、実現するのは楽しい。
- ❤困ったことがあっても、身近なことは自分たちで変えられる、解決できる。
- ❤一人ではできないことでも、仲間と考えを出し合い力を合わせればできる。

そして、これらを園に関わる全ての人々とも共有する。

３　中期的経営目標と方策

（１）主体的・対話的で深い学びの実現

本園の特色である自然豊かな園庭環境を生かした多様な体験を取り入れるとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた各学年それぞれの時期にふさわしい教育活動を推進して、主体的・対話的で深い学びを実現する。

【方策】

〇保育の基本的な考え方を全教職員で共有する機会を意図的に設ける。

教師との信頼関係を基盤に、幼児が主体的に園生活に取り組む中で、新しい物事との出合いに好奇心を広げ、願いをもち、挑戦し、試し、工夫し、探究し、実現していく過程を大人が支え、励まし、共感することを大切にする。そのことを、職員会議、園内研究会、週案会等で繰り返し話題にして、教育活動や行事の内容・プロセスを見直し、改善を図る。

〇異年齢の交流をとおして互いに育ち合う教育を推進する。

園庭を中心とした幼児同士の自然な関わり合いを大切にするとともに、学年間の交流を意図的、計画的に取り入れ、園文化の創造や継承、あこがれや思いやりの心を育む教育につなげる。

〇教師全員が「ためになる」「役に立つ」と実感できる園内研究会を推進する。

園内研究会を「教育の夢を語る場」とするとともに、課題が異なる教師がそれぞれの課題解決を図りながら、園の教育課題の解決につながるように、保育観察や協議等、研究方法を工夫する。

（２）幼稚園、家庭、地域の相互連携による社会に開かれた教育課程の実現

家庭・地域社会に、様々な発信方法で園の教育内容を積極的に伝え、連携・協働した教育活動の充実と、日常的な評価と学校評価等を基にした教育課程の改善を図る。

【方策】

〇園の教育に対する保護者の理解を促進する。

保護者会や懇談会の持ち方を工夫し、園の教育活動への理解促進と、保護者同士の交流、情報・意見交換等の活性化を図る。また、保育参観、一日先生体験、PTA 活動等の機会を生かし、様々な個性をもつ幼児がいて、関わり合って育ち合うことを知らせ、一人ひとりを生かす教育への理解を促す。

〇日常的な評価・反省を、教育活動の改善に生かす。

ＰＴＡや学校運営協議会と連携し、保護者、地域の方から教育活動に対する意見・感想を日常的に収集し、学校評価まで待つことなく年度内に改善できることは随時改善していく。また、地域コーディネーターと連携し、高輪地域ならではの取組や地域人材を生かした教育活動の更なる充実を図る。

〇こども誰でも通園制度の安定的推進を目指す。

令和８年度から開始する２歳児保育について、参加する２歳児親子はもちろん、在園児や園全体にとって有益な取組となるよう、様々な情報を収集し、安全に十分配慮した上で保育を工夫し、日常的に評価・反省を行い改善を図る。

４　令和８年度重点目標

（１）少人数であることを最大限生かした教育活動の充実を図る

幼児一人ひとりへのきめ細やかな指導、幼児同士の深い他者理解と共感など、少人数であることのメリット生かし、一人ひとりが主体者となって輝く教育活動を推進する。

【具体的な取組】

〇幼児一人ひとりの思いを大切にし、学級や園全体の中で生かす。

深い幼児理解と丁寧な関わりを基に、幼児一人ひとりの自己発揮、自己実現を促すとともに、学級や園全体で取り組む活動の中で、一人ひとりのアイデアや持ち味を生かすことで、幼児が喜びや満足感を十分に味わえるようにする。

〇異学年の交流を強力に推進する。

未就園児や２歳児を含めた異学年の交流を年度当初から意図的・計画的に実施し、幼児同士の相互理解を深め、安心や成長につなげる。また、教職員間で連携して、遊びの中での自然な交流を生み出し、互いに刺激を受け合えるようにするとともに、ねらいや内容を吟味しながら人数が必要な遊び（運動遊び、お店ごっこなど）の充実を図る。そして、担当学級以外の幼児についての情報を教職員間で共有し、多面的な幼児理解を各学年の保育の充実につなげる。

〇地域等との連携をとおして多様な体験を保障する。

近隣保育園との連携や地域の様々な方との交流等をとおして、少人数では難しい活動や、幼児のアイデアや表現の幅が広がるような取組を実施し、多様な体験ができるようにする。

（２）港区国際理解教育プログラムを踏まえた取組を充実させる

園内外の教育資源を生かした取組を推進し、「言語」「共生」「伝統」の３領域において幼児の国際理解の意識の芽生えを培う。

【具体的な取組】

〇身近な人や物事との関わりを通して、様々な文化に触れられるようにする。

季節の行事、習慣等をとおして日本の伝統文化に親しむとともに、外国にルーツをもつ幼児との日常的な関わり、保護者による外国の文化等の紹介、わくわく ぽかぽかみんななかよし」の掲示などから、様々な国や地域の言葉・文化に関心をもったり、自分たちの生活に取り入れたりできるようにする。

〇幼稚園ＮＴや大使館と連携した日常的な取組の充実を図る。

ＮＴと幼児の遊びの中での自然な関わりと、学級活動での関わりが相乗効果を発揮するような取組を検討し、実践していく。学級担任がＮＴと関わるモデルを示し、幼児の安心感や興味・関心につなげる。また、大使館との連携について検討し、幼児にとって意義のある取組を実施する。

（３）ＩＣＴを活用した取組を充実させる

幼児の直接体験を重視しながら、ＩＣＴの利点を生かした活用の工夫を模索し、主体的、対話的で深い学びの実現につなげる。

【具体的な取組】

○ＩＣＴ活用担当を中心に、組織的に活用を推進する。

担当者が中心となって情報収集をするとともに、職員会議、園内研究会、週打ち合わせ等で活用のアイデアを出し合い、３、４、５歳児それぞれでの実践を促す。子ども自身がＩＣＴ機器を使用した新たな取組についても、引き続き検討する。

○「みなエコ」、「すくわく」の取組と結び付け、新たな活用を模索する。

幼児の自然との関わりや探究活動において、見えにくいものを可視化する、友達と情報を共有するなど、ＩＣＴ機器の特長を生かした取組を考え、実践し、効果を検証する。

（４）園の教育の魅力発信と、地域の幼児教育センター機能を更に充実させる

園に関わる全ての人から本園の教育への理解や協力を得るために情報発信を充実させるとともに、地域の未就園児やその保護者が安心して過ごすことができる場として園を開放したり、通常の保育時間終了後に子どもを安心して預けられる場としてサポート保育を実施したりし、区立幼稚園としての使命を果たす。

【具体的な取組】

○ドキュメンテーションやホームページ・Ｘ等による発信を工夫する。

本園の教育の価値や魅力を、写真等を用いて分かりやすく伝えることで、園に関わる全ての人から信頼と積極的な協力を得られるようにするとともに、広く情報を発信して地域の未就園児保護者に、本園への入園を検討してもらえるようにする。

○未就園児の会の内容をより充実させるとともに、発信方法についても工夫する。

ＰＴＡや地域コーディネーターと協力しながら内容の充実を図るとともに、活動の様子をホームページ等で発信したり、近隣区有施設や掲示板等にポスターを掲示したりして、参加者が増えるようにする。

○幼児の生活リズムや体調等を考慮しつつ、より充実したサポート保育を実施する。

その日の保育や幼児の経験を生かした活動の実施、異学年の交流、国際理解教育やＩＣＴを活用した取組など、預かり保育担当教員を中心に活動内容を工夫し、さらなる充実を図る。

○２歳児保育を実施し、内容の充実を図る。

園や保育者に対する安心・信頼を築き、家庭と異なる経験を促す場として環境や保育内容の充実を図る。また、在園児との交流を積極的に行い、互いの育ちにつなげる。

（５）教職員の働き方改革を推進する

教育活動の円滑な遂行や更なる充実のため、教職員の心身の健康の保持と主体性の発揮を促す働き方改革を着実に進める。

【具体的な取組】

○教職員一人ひとりが主体となって効果を実感できる取組を推進する。

定時退勤や平日の年休取得を推奨し、それを実現するために教職員間の情報共有・協力を推進するほか、役割分担の見直し、業務の軽重判断や省力化等を随時進める。また、長期休業期間中のリモートワークを推奨する。